

	音楽研究会			歌唱部会記録	
日時	令和3年10月6日				
部会名	歌唱部会			主任	仁田峠 洋子（綱島小）
参加数	24名	司会	慶長 明代（川和東小）	記録	齊藤 菜採子（名瀬小）
研究内容	研究主題：ときめく つながる 響き合う音楽科学習 研究部テーマ：音楽的な見方・考え方を働かせ、思いや意図をもって、 協働的に学ぶ子どもの姿を目指して 歌唱部会テーマ：楽曲のよさを感じ取り、互いに歌い聴き合う中で、自分の考えを広げ、 豊かな表現をめざす歌唱活動 ◇実践提案1 西寺尾小学校 杉山先生実践提案 第4学年「もみじ」 3年前に行った授業をもとに実践提案。 育てたい力を明確にした授業づくりを重点研究で行った 3年・4年での積み重ねでどんな表現にしたいか話し合い決めていく。 やさしくふわっとした声 地声にならないようにフレーズを意識してなめらかに ★手だて ○聴きあいの場の設定 ○子どもたちの思いや考えをつなぐ学習カードの活用 教師がこうしようというのではなく、子供たちのおもいで授業を進めたい。 学習カードで、一人一人の思いをくみとった 〈授業の中では・・・〉 ・♪数なる中に～を、地声やリズムカルに歌う子は、めあてにかえてなげかけた。 ・3段目の最初の音がつられる・・・じゃあ、そこをきれいに重ねられるといいね。ポイント練習。 ・もっとパートで声を聴きあって歌いたい。・・・ 丸くなって歌う。 ・学習カードに「下のパートの歌声にのるような感じて歌いたい」って書いてあったけど・・・など、カードを引用し投げかけをした。 〈学習中、学習後の子どもたちからきかれた言葉や見られた姿〉 「きれいに重なっている！」 「歌いやすくなった！」 「すっきりした！」 子どもたちが、妥協しない姿がみられた。 重なり合ったときに拍手があった。重なりを意識していることが分かった。 〈考察〉 学習カードの中から、共通する思いを広い、全体のめあてにつなげた。こうしてみようという前向きな				

意見たくをさんきくことができた。

学習カードで、児童の思いを把握しておくことで、授業の中で活動を広げたり投げかけたりする手だてとして有効だった。

聴き役になるより、歌いたい子が多く、聴き役がいつも偏ってしまう。聴き役の立て方を、どういったらよいか、他に手だてを知りたい。

◇実践提案 2

丸山台小学校 松野先生

「研究授業構想に沿った実践提案による研究」

〈実態〉

歌うのが大好きな児童。コロナの影響で、3月からおもうような学習ができていない。

1年半の間に、思いっきり声を出して歌うのは久しぶり。

今月の歌や、音楽朝会がない学校で、もっと早くから歌っておけばよかった・・・という反省がある。

「もみじ」を知っている児童が3人しかいない状況から・・・

第1次 「旋律の特徴を感じ取り、フレーズを生かして歌う。」を目標とした。

第2次 「主な旋律と副次的な旋律の音やリズムの重なりを感じ取って歌う。」

・数ある中を聴いて歌う。

→後半副次的な旋律が重なることに、子どもたちが気づく。

第2次の最初と最後に録音したものを聴き比べて・・・

第3次 音の重なりのおよさや美しさを感じ取りながら2部合唱する。

第3次の最初にまず音を重ねて歌ってみる。主な旋律を教師が、副次的な旋律を児童が歌ってみる。→あちゃ！こりゃ時間がかかりそうだ。

3度の音の重なりをとる手立て

ロイロノートで範唱を聴いて学習を進められるようにする。

ロイロノートを使つての個人学習

7つのステップで学習できるようにした。

ステップ1 まつをいろどるかえで

ステップ2 かずあるなかにー まー

ステップ3 かずかるなかにーまーつー

というようにステップ7まで掲載。

ロイロで主旋律をテレビで。つられそうな部分はオルガンの音や教師の生の歌声で。

二つのハイブリッドで合唱を支えた。

→合唱になっていくきざしが見える。

〈授業を終えて・・・〉

コロナで集団で歌うことが難しい。まずは、個人でしっかりと自分の旋律を歌えるようにしたいと考え、

実験的ではあるが、ロイロノートを活用した音楽の実践に取り組んだ。

コロナ禍で、子供どうしが互いの声を聴きながら音を重ねていく学習がやはり難しかった。

★授業者向井先生から★

- ・3段目の出しが改めて難しいと感じた。
- ・松野先生のロイロを使った、7段階の手だてがあって、子供たちが、音がとれていくのかなと思った。二つの実践提案から、イメージができてきたが、以下について検討してほしい。
- ① つられないために、どうする？という指導を普段からももっと取り入れたい。
上のパートは1の音量でという手だてのほかになにかありますか？
- ② どんなふうにみなさん聴き役を立てていますか？対面が感染対策で今できないので、どうしていますか？
- ③ パート分けのタイミング。主旋律・副旋律を選べるようにしようと考えているが、授業の途中で、席を入れ替わるのは、12月の時点で（感染対策の考えで）可能か。

★zoom 会議上でグループに分かれ、いろいろ意見を出し合い、その後共有しました★

向かい合って聴き合うとき、何メートル離れたらいいのかな。1. 5離れて前向いて歌っている壁と壁に離れて歌っている。

授業中の席の移動については、学校によっては移動してよいという学校と、自分で音をイメージして歌うという学校もある。

第三次の最初に、副次的、主旋律を両サイド、真ん中にどちらでもよい児童を配置してはじめるのがよいという意見が出た。

主旋律も、副次的旋律も、1・2時で全員が歌えるようにして、交代して歌えるようにする

全員を聴き役をしている先生もいた。

聴くことは大切。いろんな子供たちに聞く体験をさせた。

杉山先生

前向きにうたう・・・音程を表すハンドサイン

図形楽譜で3度をイメージ

子供たちの声で、誰の声を聴くと歌いやすいか。主軸になっていく子を増やしていく。旋律を取れていく子を後ろに移動させていく。

聴き役になると、聴いてしまったら、何か言わなければいけないとなると、躊躇してしまうので、一言でいいよ、など、ハードルを低くすると聴く子も増える

ホワイトボードに向かって聴き役が聴いている。

よかった時にホワイトボードによかったところに印を貼っていく。

富沢先生が以前お話ししていた・・・

	つられやすいのは、 頭の中で考えてから歌うのでつられる。 聴きあうより、聴かせ合うほうがつられない。そのときに、応援合戦にならないように。 ♪数ある中に～の最後の音と、♪<u>ま一つを</u>の<u>ま</u>の音は、ラの音で同じということを言 あげるのもよい。
--	--